

2023年3月25日

ワイズメンズクラブ西日本区

理事 田上 正 殿

次期理事 深谷 聡 殿

直前理事 新山 兼司 殿

ワイズ将来構想特別委員会

委員長 森田 惠三

副委員長 岩本 悟

委員 一同

当委員会第49回委員会により委員一同の決議により確定した6年9か月にわたる活動についての総括報告書を提出いたします。

## ワイズ将来構想特別委員会活動についての総括報告書

### I. 委員会事業活動の経過（2,016年7月から2,023年3月）

#### 1. 委員会設置の趣意書の概要

岩本 悟理事期の2016年7月16・17日開催の第1回役員会にてワイズ将来構想特別委員会の設置が承認され、続く11月5・6日第2回役員会にて関連事項として設置趣意書・委員会規則・委員会構成が承認可決され、その後「ワイズ将来構想特別委員会設置についての趣意書」が岩本悟理事及び森田惠三委員長名をもって公表されました。

#### 趣意書の概要

1997年7月1日を期してワイズメンズクラブ日本区は東西に分離独立しました。東西両区が分離独立し協働して双方ともに拡大成長することが期待されながら、西日本区発足時1952人であったのが、2016年期末では1494人、458人の減少となり実に憂慮すべき現状であり、1クラブ平均会員数の減少(24.1人が18.0人)がワイズ活動の衰退を物語っており「数は力なり」の名言を改めて認識すべきことであります。

参考資料として、①西日本区会員数推移表 ②日本区年代別表(2015年7月現在) ③西日本区各部平均年齢表(2015年7月現在)を公表して、会員の皆さん！今ここにきて共に『これでいいのかワイズメン、ほっとけない！』との思いを強く持っていただきたい。今こそワイズから受けたその恩徳に対して報恩に生きるワイズライフへと切り替えていくべき時機が到来しております。

この危機的状況の打開策には即効薬などはなく、長期にわたる抜本的対策と実践による運動展開しかないこと。それには、衰退傾向に歯止めをかけ、発足時のワイズ力を取り戻

し、さらなる発展への将来構想づくりに関連する事業委員会・常置委員会・特別委員会と共同して実践活動ができる長期にわたる特別委員会を設置する必要があります。

その理由の一つは、ワイズの組織がクラブ・部・区すべてのレベルにおいて一年制のために、継続した活動成果が得られないという弊害が続いていることでもあります。

特別委員会には、志を一にする熱意ある同士が協議を尽くし、質量相俟った会員増強の目標・ワイズの将来像・社会における存在性・加えて今後の新展開を模索されているYMCAとのパートナーシップを重視した協働関係の在り方のほか幅広い課題に取り組み、その重要な使命を果たすべく努力することが期待されるところであります。

今後において長期にわたる活動のために、「西日本区の発展を希求するビジョンと基本計画」を立てるための前段階として、元理事や関連事業委員会の元・現・次期委員長らとの会合を持って対策意見を聞き、さらに態様が異なるすべてのクラブに対しての詳細なアンケート調査を実施して基本計画策定への参考資料を纏めます。

なお、長期計画達成は国際ワイズ100周年、西日本区25周年記念を迎える2022年度を目標とします。どうか西日本区の皆さんには、ワイズ起こし運動に熱意と勇気をもって参画していただくよう切望します。

## 2. 「西日本区各クラブの実態調査アンケート」の実施と参考資料の配布・活用要望

2017年3月1日全クラブにアンケートを発送し回答期限を4月末として実施。回収に努力した結果84クラブ全てから回答を得ました。

アンケートは短答式128項目・意見式14項目合計142項目にわたる大規模なものとなり、この「アンケート結果概要報告」は回答いただいた各クラブ会長と部長には配布し、理事通信8月1日号にて公表しました。

重ねて、アンケートについて「部別・規模別・クラブ別・意見記述集計」別に分析作業を実施したほか、クラブ会員年齢表・クラブ平均年齢分布表・会員年代別表・部別会員推移表を作成。こうした上記資料を一括したアンケート結果として各部長に配布し、部長・次期部長とその後引き継いでいただく貴重な資料として活用されるように要望しました。

## 3. 西日本区の発展を希求するビジョンと基本計画策定と実働チーム組織化を提案

2017年10月10日付にて「西日本区の発展を希求するビジョンと基本計画案」を大野理事あて提出し役員会にて承認を受け、2018年理事通信1月号においても発表しました。

この件についての説明文には次のことを強調しています

このビジョンと基本計画案は、西日本区全会員が願望として共有する目標を明示するものであり、基本計画案には高める質に伴う量的拡大の道程を歩むために必要と考える重要な項目を掲示しているものであります。

基本計画の実行にあたっては、「新生ワイズ起こし運動」として全会員が取り組むべき

ことではありますが、その中核としての活動が期待される各部における実働チームの編成が必要不可欠であるとの意義も明示しています。

委員会としては、西日本区ビジョンと基本計画実行の成否は、一に当委員会と実働チームによる強い連携と情熱あふれる努力、加えて全会員の心ひとつにした会員増強への飽くなき熱意と活躍にかかっているとの確信をもって本案を提出しました。

#### 4. 「西日本区新生ワイズ起こし運動」イメージ図とDVDを発表

基本計画に引き続き「ワイズ起こし運動イメージ図」を作成して、2018年2月区報第2号の別冊として発表し、次期会長・事業主査研修会で披露。続いて4月には「ナレーションを付けたDVD」を作成し部長・クラブ会長に配布して、各部の実情に合わせた活動展開のために編成される部主体の実働チームを中核とした運動体制を作ることへの協力を呼びかけました。

#### 5. 各部への広報活動・「クラブ内情報伝達方法等についてのお尋ね」と元メネット事業主任との懇談会開催

2018年9部の部会・EMCシンポジウムにおいて運動のアピール啓蒙に努めたほか、運動の展開にあたって活動情報を全会員へもれなく広報するためには、各クラブの情報伝達方法などについての状況把握が必要のため、2019年1月末までに「クラブ内情報伝達等についてのお尋ねの回答」を回収しました。その結果、区内情報伝達の未成熟さが判明しましたので、西日本区ワイズコム実施を広報情報委員会に提案しましたが着手されないうままになっています。

数年来メネット事業の在り方に課題ありとの指摘を受けていることについて、戸所次期理事からの要望をもって、2019年3月1日の委員会開催時に元事業主任との懇談会を開催し、混乱をきたしているメネット事業について、メネット会の持ち方・位置付けなどを協議する意義ある会議となりました。

#### 6. 各部に実働チームとの初会合開催を依頼、「新生ワイズ起こし運動推進横断幕」を新調し「ワイズ起こしニュース」を発行。

2019年秋中国から新型コロナウイルス感染が発生、パンデミック（世界的大流行）により2020年から国内に急拡大。

2019年3月には各部実働チームと当委員会との初会合早期開催の願状を理事・委員長名をもって発送。

6月第22回日本区大会(京都)において、西日本区ビジョン「誇りと情熱をもって社会に貢献する前向きで逞しいワイズ」と「2022年・2022人に向かって新生ワイズ起こし運動の推進」と大書して新調した横断幕を掲げて、委員会一同とともに800人のワイズメン・メネットに向かって力強くアピールができました。その後9月・10月に開催された8部会までは同様にアピールできました。

8月には「新生ワイズ起こしニュース」の第1号を発刊し、2021年9月第7号まで発行したが、その後休刊となっています。

コロナウイルス感染拡大により2020年4月26日の第28回拡大委員会からは、ZOOMによるONLINE会議となり2023年1月第48回まで継続中でありましたが、漸く3月5日にはリアルでの会議を開くことができました。

#### 7. 西日本区・部・クラブ会員数推移表作成と新生ワイズ起こし運動推進スローガン募集

2019年8月配信した会員数推移表は西日本区発足の1997年7月からの継続データであり、再度、会員への周知のために配信。同月にはスローガン応募19作品の内から「ワイズ100周年！輝く歴史を未来まで！」を採択しました。

#### 8. コロナ禍にあって委員会の在り方を再考

2020年8月には、ワイズ活動のほとんどが厳しく束縛されている環境にあって今後の委員会活動について会議を持ち、①ビジョンと基本計画が新時代に適合するものかを再検討。②区・部・クラブ各レベルにわたる広範かつ深みのある運動推進の啓蒙。③委員会と実働チームとの協調強化。④YMCAとワイズとの関係を革新的なパートナーシップに改善強化。⑤「新型コロナ対策特別委員会」との活動協調の在り方検討。⑥国際100周年・西日本区25周年記念事業への対応推進を東西日本区へ求めることなどを協議しました。

#### 9. 役員会への要望

次回2021年の第24回西日本区大会(京都)にはイベントスタイルは縮小し、ワイズメンズクラブにとって質的向上に益となる企画を盛り込み、当委員会企画コーナーも設けられたい旨を要望しました。しかし、この企画は実行できませんでした。

#### 10. 新生ワイズ起こし運動特別資金の残余金を一般会計に移管処理

新生ワイズ起こし運動のためJWF資金より拠出された資金300万円のうち、新型コロナ感染拡大の影響を受け運動の各種活動計画が妨げられ実施できない状況となっていたこと、また、コロナ惨禍にある会員や部に対する特別施策として2020年度前期区費の免除が実施されたことを受けて、当委員会の申請により特別会計の「新生ワイズ起こし運動特別資金」の残余金1,827,506円を前期区費免除分の一部補填として一般会計に移管処理することが2021年5月常任役員会にて承認されました。

しかし、これによって運動資金が0となり活動意欲が少し低落した感がありました。

#### 11. 「西日本区ワイズの改革に資する提案・情報資料提供のお願い」募集

先の見えないコロナ禍の社会変化にあって、外向的なワイズ活動に大幅な制約を受けることを鑑みて、入会勧誘と退会防止の両面にも強く関係するクラブや会員の質的向上・西

日本区の組織や運営・YMCA との協働関係などを見直し改善して、社会構造の変化に沿ったワイズの道を見つけていく内向的施策を採用することとし、その企画として、2021年4月全会員に向け「西日本区改革に資する提案・情報資料の提供」の募集を開始しました。

2021年8月末をもっての募集結果は、応募者31名、提案件数69件、情報資料提供が8件、合計77件の協力を得たので、応募者全員に対し協力への感謝とその後の委員会の取り組みについて報告しました。

## 12. ワイズ将来構想特別委員会委員の任期延長

「改革に資する提案」に関しての重要な作業活動が見込まれることから、2021年度期末をもって任期を終える5名委員について1年間の任期延長することについて、2021年10月役員会にて承認されました。

## 13. 「改革に資する提案」の内容検討・課題別の分類作業に取り組み、一覧表を作成し・課題担当部署を決定するなど対応に取り組む。

課題の内から2021年10月役員会における議案として2件、協議案として5件を提出しました。その他は①当委員会にて長期間の検討を必要とする課題と②関連するに事業委員会に検討・対応の協力を依頼する課題に分類しました。

## 14. 「改革に資する提案についての対応のまとめ報告書」の完成と報告

対応のまとめ作業にはコロナ禍により ONLINE 会議に頼らざるを得ず、作業に予想外の長時間を必要としましたが、2022年10月にして漸くまとめて報告書を完成し、提案者はもとより西日本区役員・クラブ会長に対し報告書を配信するとともに、対応一覧表を参考として今後の区・部・クラブ各レベルにおけるワイズ活動に活用されることを要望しました。

## 15. 新パーパスブランディング（PB）策定への取り組み

「改革に資する提案」の内最重要課題となった新しいPB策定の件について、先ず当委員会からの7人と提案者からの2人がPB策定にあたって、①Why（ワイズの存在意義）②Where（実現したい姿）③What（大切な具体的計画）④Who（誰に向かって）⑤When（いつまでに）⑥How（どのようにして策定し、その後の行動）の分野にわたる私案を提案。

その後これを参考としてPBの骨子を検討する小委員会を設置して5回の会議を重ねたうえの報告をもって当委員会にて協議の結果、この機会に現委員会を新しく若い世代の会員から人材を選んで改組し、その新組織をもって新しい時代に相応しいPBを策定することが適正であるとの結論を得ました。

16. 本件を正しく理解のうえ承継して参考とされたい委員会の作成資料（リンク集）

※アンダーのある項目をクリックして資料をご覧ください。

- ① [ワイズ将来構想特別委員会設置趣意書](#)
- ② [西日本区各クラブ実態調査アンケート結果概要報告書](#)
- ③ [西日本区各クラブの実態調査アンケート結果](#)  
[「アンケート用紙」](#) [「部別集計」](#) [「規模別集計」](#) [「クラブ別集計」](#)  
[「意見記述集計」](#)
- ④ [クラブ会員年齢表](#) ・ [クラブ平均年齢分布表](#) ・ [会員年代別表](#) ・  
[部別会員数推移表](#) ・ [2000年からのメンバー数推移](#)
- ⑤ [西日本区の発展を希求するビジョンと基本計画](#) [基本計画イメージ図](#)
- ⑥ [新生西日本区へ向け発信](#)  
[西日本区新生ワイズ起こし運動イメージ図](#)
- ⑦ [ナレーション付きワイズ起こし運動DVD](#)
- ⑧ [クラブ内情報伝達等についてのアンケート結果](#) [「アンケート用紙」](#)
- ⑨ [新生ワイズ起こしニュース](#)  
[「No. 1」](#) [「No. 2」](#) [「No. 3」](#) [「No. 4」](#) [「No. 5」](#) [「No. 6」](#) [「No. 7」](#)
- ⑩ [西日本区改革に資する提案・情報資料の提供募集](#)
- ⑪ [改革に資する提案についての対応のまとめ報告書](#)  
[ワイズ改革に資する提案・提言についての対応一覧表](#)
- ⑫ [新しいパーパスブランディングの9名の私案](#)
- ⑬ [パーパスブランディング小委員会議事録](#)

## II. 委員会事業活動の反省

### 1. 各部実働チームの設置と活動の不完全

委員会発足当初から、基本計画の実行にあたって委員会と協働し「新生ワイズ起こし運動」の中核としての活動が期待される実働チームの編成が、各部に必要不可欠としてその設置を懇請してきましたが、3部を除いてその進行が鈍く十分な体制が整わない間にコロナ禍を迎えてしまいました。

### 2. 運動展開の重要性を徹底PRする機会としての諸会合の開催中止や役員・会長研修会への不参加

各部におけるフォーラム・部会などが2年度のほかには開催できなかったが、研修会に対しては当委員会からもっと積極的に講師参加を要請すべきでありました。

### 3. 運動のイメージ図とDVDを部・クラブに配信したが継続的な活用の不徹底とワイズ起こしニュースの途中休刊

印刷媒体による広報活動は殆どの会員に読まれていないのではないかと思います。

### 4. 西日本区定款変更の件の承認施行を促進

当委員会と組織検討委員会との協働の中で作成した定款変更案を2021年1月第3回役員会に提案しましたが、継続審議となって停滞しています。区・部・クラブいずれのレベルにおいても長期かつ重要な継続事業の遂行に障害となっているのは、役員任期が一年制であることを鑑みて、改定案第12条にトロイカ方式の規定を新設しています。このトロイカ方式を徹底理解し実行されるためにも早期改正の実現を望むものであります。

### 5. 当委員会の委員構成に歴代理事に加わっていただいたことと、関連事業委員会と合同の拡大委員会を構成したことについての当初の期待

歴代理事にはワイズ起こし運動が衰退傾向にあるワイズ力を回復し発展を希求する大切な6年にわたる継続事業であることを、会員に対しての最強力の啓発と後続理事へ思いをつないでいただきたいという期待があったからなのです。

関連事業委員会とも拡大委員会として当初には協働を図りましたが、それぞれの事業委員会には通常の活動計画があり、むしろご迷惑をおかけしたかとの思いであります。

### 6. 6年9か月にわたる当委員会活動の反省と成果

当初スタート時から2019年9月までは実働チーム体制が十分でない中でも西日本区大会も含め、ワイズ起こし運動の啓発広報活動も順調に進行し、いよいよ本格的な運動展開を始めようとした頃からコロナ感染拡大によって、フォーラムや各部訪問などリアル

形式の外向的活動が制約され、止む無く当委員会から会員への施策を内向的活動へと転向し、「改革に資する提案」募集とその対応事業を実施するに至り、その内から最重要課題となった新パーパスブランディング策定に取り組み、基本作業を終えたうえで、若い世代にバトンを引き継ぐこととした次第であります。

ここで「新生ワイズ起こし運動」を反省してみると、最も大きいこととしては、当委員会と末端会員との間に感ずる危機感と運動へかける思いの格差を埋めるべき活動に努力したものの、相互理解に果たすための直接対話の機会も少なく、最後までその密着度の差異を縮めることができなかつたことがと考えられます。

当委員会の進め方にコロナ禍の影響下とはいえ、優先順位を決めた対応や検証、具体的方向の示唆に欠ける点があったことなども認めるところではあります。

そうした結果、ワイズ起こし運動の成果は、数的には下記の通りとなりましたことは誠に残念な思いであります。

#### 2016年7月～2022年7月クラブ数・会員数比較

2016年7月1日現在 83クラブ 1494人

① 創立クラブ 4クラブ

北京都フロンティア 熊本水前寺 熊本五福 とやま

② 解散クラブ 13クラブ

福知山 大阪セントラル 岩国 金沢犀川 大阪堺 大阪千里  
草津 鳥取 津 大阪高槻 京都みやび さんだ 熊本ネクサス

2022年7月1日現在 74クラブ 1297人

9クラブ減少 197人減少

しかし当委員会の働きによって一方では、

- ① 「新生ワイズ起こし」という言葉が広まりつつあって、YMCA とのパートナーシップ委員会を継続していきたいと希望がもたれるように、目立たないながらも改善された事項があること。
- ② これまで熱意が感じられなかつた多くのクラブにあってワイズの衰退傾向の認識が進み、最近では真剣に検討しなければならないとの危機感を覚えて、質量相まった増強への意識向上の気配が感じられていること。
- ③ 2023年2月4・5日開催の第3回東西日本区交流会においても、ワイズ起こし運動推進の希望が窺われた企画となったこと。
- ④ 「新生ワイズ起こし運動」を提唱した「ワイズ将来構想特別委員会」としての働きには大きな意義あつたとの評価をいただいたことなどを、委員会としては委員一同の喜びとするところであります。



### Ⅲ. 新パーパスブランディング策定作業を若きワイズメンに承継

#### 1. 当委員会からの承継への願い

ワイズが誕生した100年前はもとより、ワイズ日本区が分離独立した25年前との比較においても社会情勢が大きく変化しています。昨今においてはコロナ惨禍・経済・政情不安・自然環境の悪化・米中対立・急速なAIの進化等々国際的な変化に加え、少子化・人手不足・防衛費の拡大・多様化・景気の低迷など、ワイズ運動にも強く影響を及ぼし衰退傾向に厳しく反映しています。この状況に対応するためにもワイズは思い切った大きい変革をする勇氣が必要であります。

この厳しい環境下でのPBの策定は、長期にわたる大変な努力が求められます。それにはワイズを楽しみ、誇りと情熱、そして未来に希望を持つ男女混成の若き世代のワイズメンの皆様がこの労苦を引き継いでいただきたいと心から願うものであります。

#### 2. 引継ぎと強化への参考事項

- ① 本書I-16に記載する当委員会の作成資料の活用。
- ② コロナ禍に合って十分には展開できなかった「各部でのワイズ起こし運動」を活性化するため、それを支援するワイズ起こし運動特別資金の活用。
- ③ 本部組織の再編と組織との連携強化。
- ④ 大胆な組織運営の改革。  
例えば理事の負担を軽減し、2年任期も可能な体制を目指す。少なくともトロイカ方式を徹底し、1年任期の弊害を除く。また、会員が常時改善提案できる制度の創設など。
- ⑤ YMCAとの連携、Win & Winの相互支援、ユースを含めた人的交流など、ワイズでこそその良さ・特色を生かした活動。
- ⑦ ワイズの認知度向上のための施策、広報の強化策をさらに追及。
- ⑧ 新たな視点でパーパスブランディングを検討し策定を目指す。

以 上

#### IV、ワイズ将来構想特別委員会活動の総括報告を終えるにあたって

最後に、この長きにわたった委員会活動にあって、高齢にして浅学、力不足な委員長をお支えいただいた岩本 悟副委員長はじめ委員会の構成メンバーを下記に掲示し、改めて委員皆様の温かいご交情に対し深甚なる感謝の意を贈るとともに、残念ながら任期途中にあってご他界なされた岡本尚男・畠平雅生・森本榮三の皆様には、当総括報告書を捧げて心からのご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

委員長 森 田 恵 三

#### ワイズ将来構想特別委員会委員構成 (16名)

委員長	森 田 恵 三	京都ウエスト	2016・7～2023・6
副委員長	岩 本 悟	熊本にし	2016・7～2023・6
委員	大 野 勉	神戸ポート	2016・7～2023・6
	岡 本 尚 男	京都キャピタル	2016・7～2019・6
	畠 平 雅 生	大阪西	2016・7～2019・6
	三 浦 克 文	岡山	2016・7～2023・6
	荒 川 恭 次	名古屋グランパス	2016・7～2023・6
	遠 藤 通 寛	大阪泉北	2017・7～2023・6
	森 本 榮 三	大阪高槻	2017・7～2021・6
	浅 岡 徹 夫	近江八幡	2017・7～2023・6
	戸 所 岩 雄	彦根シャトー	2018・7～2023・6
	金 子 敏 郎	広島	2018・7～2023・6
	古 田 裕 和	京都トゥービー	2019・7～2023・6
	新 山 兼 司	京都トップス	2020・7～2023・6
	田 上 正	熊本むさし	2021・7～2023・6
	深 谷 聡	名古屋	2022・7～2023・6